

「出土文献研究」

国際シンポジウム 2023 IN 東京

開催日時：2023年7月15日(土)

開催時刻：14:00-17:00

主催者：國學院大學大学院

共催者：清華大学出土文献研究与保護中心、山東大学文化遺産研究院、日本中国出土資料学会、日本中国金石学社、JSPS 科研費 21K00885

会場：國學院大學 渋谷キャンパス 6B13 教室 (6号館地下1階)

開催様式：ハイブリット様式(対面と zoom によるオンライン両方)

オンラインでご参加されたい方は、お名前・所属・メールをご記入の上、以下のメールアドレスに申し込んでください。近づいたらリンクをメールで一斉送信します。

Ryukaiu18@gmail.com

7月15日(土) 開幕式：14:00-14:10

挨拶：大石泰夫教授(國學院大學)

李 守奎教授(清華大学)

研究発表

14:10-15:20 石小力先生(清華大学副教授)

題目：「清華簡『畏天用身』と先秦期における天人関係」

要旨：这篇竹书一共有 17 支简，属于诸子说理类文献，围绕天人关系展开论述，作者认为天、人二者各有职分，不可偏废，同时也有联系，不能割裂，但更强调发挥人自身的主观能动性，是一篇重要的先秦思想文献，对于研究先秦时期的认识论、天人关系等具有重要价值。

15:20-15:30 休憩

15:30-16:30 劉海宇先生(山東大学教授)

題目：「園田湖城の印学資料コレクションに関する調査研究」

要旨：園田湖城(1886-1968)是近代著名篆刻家、书法家、印学资料收藏家。他出生于篆刻世家，历任日展审查员、日本书道联盟理事、同风印社主宰等职。他的古玺印和古印谱收藏久负盛名，与太田孝太郎(号梦庵，1881-1967)齐名，同时他又精通印谱的制作，曾发行自藏和他人藏古玺印的印谱二十余种、流派印谱十余种。园田湖城旧藏中国古玺印 645 方均现藏和泉市久保惣纪念美术馆，今据调查所的详细资料，同时对这批古玺印进行初步研究。

16:30-17:00 質疑応答